

Dec. 1935.

239

兩者間に相對する似た別群が存在するのはその証據である、又海藻類の二三にも此の不連続分布の例が見られる。

しかし印度洋、太平洋、及オーストラリアの熱帯近海に對してカリビア海にもそれ等のものゝ置換えられた群があるのは説明に困難である、その間の連絡は太平洋を通じて行はれたともカリビリ海から各太平洋及地中海に分散したとも考へる事が出来るからである。

カリビア海にはヒルムシロ科に屬する二つの印度太平洋群に相當する群が産する、地中海にも實際二つの此科に屬する群があるにもかゝらず此等はカリビア海の群よりもむしろ印度太平洋又はオーストラリアの群に相當する、従つて始新世及び漸新世の間にパナマ海峡及び中央アメリカの狹部を越えた狭い海の連絡があつて、そこでカリビア海と太平洋とが續いて居り、それによつて此の兩者の間に海草の移住が行はれたのであらう、であるから太平洋は少くとも第三紀の間は他にさえぎるものゝない太平洋であつたと想像する事が出来る。

(大井次三郎)

#### 南洋栽培協會編：南洋の栽培事業 pp. 1123 (1935).

本邦人の海外への發展は鎖國主義の改められた明治の維新に始まり西歐諸國に比してずつと新しいのであるがその間にあつて特に最近の發展は北に南に目ざましく、なみだぐましいものがあり本書も之れを如實に物語る一証據である、本書はどちらかと云ふと南洋方面の農業を主とする經營や移民者の爲めの指針書である上に抄録者が農業方面に明るくないにもかゝらず紹介し様とするのは邦書に乏しい南洋方面の有用植物に關する書としても適當と信ずるからである、本書は大部分新嘉坡在住の照屋全昌氏の編著で有用植物に關する記述は中編の大部分を占めて居る、南洋で最も重要なゴム類の栽培に次いで馬來半島、蘭領印度、英領ボルネオ、ヒリツピン、英領印度、ビルマに於ける有用材、椰木類、纖維植物、藥用有毒植物、香味藥味及精油類、食料飲料及嗜好植物園藝植物の各項にわたつて所々實物の寫眞入で網羅してあるので有用植物を知るのにも大變便利である。

東京麹町區丸の内二丁目二番地南洋栽培協會の發行で定價金七圓である。

(大井次三郎)

マツクリューア氏：——支那産ヒビランチク屬の種類 Mc CLURE: The Chinese Species of *Schizostachyum*, in Lignan Science Journal vol. 14, no. 4 (Oct. 1935) 575—602, pl. 34—39.

著者は支那廣東の嶺南大學にあつて親しく支那産の同屬植物の生品を見、又多數の標品を調べた結果次の五種を認めて居る。

- 1) *S. Funghomii* Mc CLURE (sp. nov.) —— 廣東廣西兩省の産 で未だ自生状態に於ては知られて居らない。
- 2) *S. lima* (BLANCO) MERR. —— 廣東省並にヒリツピン群島の産、で支那では從來知られて居らなかつた種類であつたが 海南で栽培して居るものと同時に野生品も見つかつた。
- 3) *S. hainanense* MERR. —— 海南島の産 で此所で始めて記載が發表された。
- 4) *S. dumetorum* (HANCE) MUNRO. —— 廣東省。
- 5) *S. chinense* RENDLE. —— 雲南省。

六枚の Plates の内五枚は此等五種の花の解剖圖で最後の一枚には *S. chinense* を除く四種の竹の皮の圖である。(大井次三郎)

**金平亮三氏：**—— **ミクロネシア植物總覽** (Ryōzō KANEHIRA: —— An Enumeration of Micronesian Plants in Journ. Depart. Agricult. Kyushu. Imperial University Vol. 4, no. 6, November 30, 1935).

日本委任統地ミクロネシアは約 1400 島 2149 sq. km. より成るがこの地嘗つてはイスパニヤ領、獨逸領であり其の後日本の委任統地となつたところである。金平氏はこの間に於ける研究史を述べられ、現今知られてゐる 1219 種を擧げて居られる。これ等は 142 科 616 屬に分類され、この中 8 屬 456 種がこの地帯に固有であり 230 種は輸入種であるとの事である。日本人としては小泉博士 1914-1915, 金平博士 1929-1933, 細川學士 1933-1934, の採集研究がある。從來この地帯にはかゝる總覽なく且つ近年多數發表された新研究がすべて擧げられてあつて後進者を大いに利する事と思はれる。(北村四郎)

## 雜 報

### ボダイジュの天生

鄭萬鈞氏によれば、ボダイジュ (*Tilia Miqueliana* MAXIM.) は支那、南京の東にある寶華山 (Paohua-shan) に生ず。(中國科學社生物研究所論文集、植物組、第九卷、第二號、181 頁参照)

### *Erycibe obtusifolia* BENTH.

故 E. H. WILSON 氏は、沖繩島嘉手納にて本品を採集した事を Jour. Arnol. Arbor. I. p. 183. に示してあるが Arnold Arboretum に藏する本品を見ると、實は然らずして *Erycibe Henryii* PRAIN. (= *E. acutifolia* HAYATA.) ホルトカヅラ、サダカヅラで